

平成29年度
(通算第6回)

初年次教育部門

教育実践・研究発表会

本学では、「違いを共に生きる・ライフデザイン」と「日本語表現 T1」の2科目を、新入生全員が受講する〈基幹科目〉に位置づけています。基幹科目が目指すのは、大学の理念を理解し、多様な価値観に触れ「共生」を模索するなかで自分自身と向き合うこと、そうした思考のプロセスを自分のことばで論理的に説明する確かな表現力を養うことであり、これは次代を生き抜く力の基盤となります。

このたび、上記〈基幹科目〉を中核とする初年次教育部門の学修支援と、各学科・専攻の導入教育ならびに初年次教育との連携に資することを目的とした「教育実践・研究発表会」を開催します。「10年先、20年先に役立つ人材の育成」を目指し、現場ではいまだのような教育指導が求められているのか、問題意識を共有する場になれば幸いです。

お気軽に会場まで足をお運び下さい。

日時

平成30年3月6日(火)
15:00~16:50

会場

K1 会議室
長久手キャンパス研究棟 2階

研究発表

「違いを共に生きる」の具現化に向けた 取り組み—大学理念教育の実践と課題—

[発表者] 初年次教育部門助教 下岡 邦子

学生の文章作成における「つまづき」の傾向 —ライティングサポートデスク個別相談の現場から—

[発表者] 初年次教育部門教授 外山 敦子

ライティングサポートデスクにおける チューター研修の実践報告

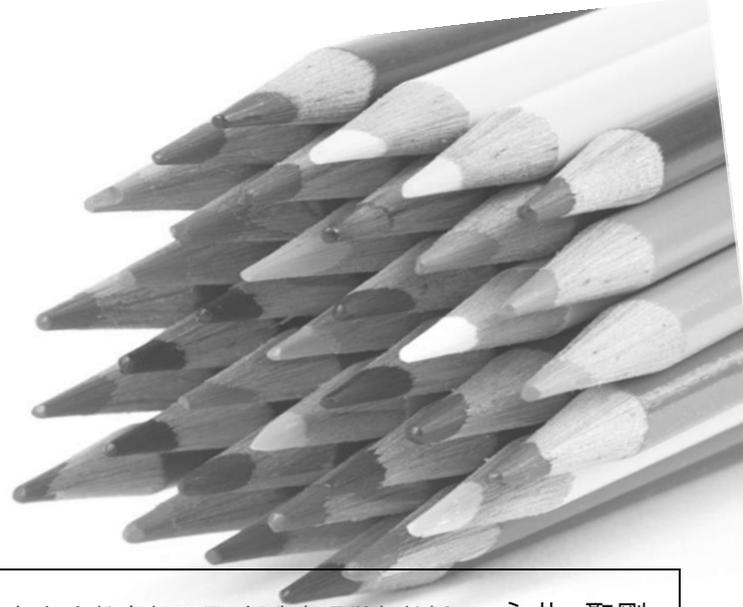
—他者との対話と共有による意識の変化に注目して—

[発表者] 初年次教育部門助教 増地ひとみ

問い合わせ先

初年次教育部門 担当：外山敦子
内線〈長久手〉2321 / atoyama@asu.aasa.ac.jp

プログラム及び発表概要



15:00	主催者あいさつ <p style="text-align: right;">初年次教育部門長・創造表現学部教授 永井 聖剛</p>
15:10	「違いを共に生きる」の具現化に向けた取り組み <p style="text-align: center;">—大学理念教育の実践と課題—</p> <p style="text-align: right;">初年次教育部門助教 下岡 邦子</p> <p>【概要】 近年、大学における「自校教育」の重要性が指摘され、実際に、初年次教育のカリキュラムの中に自校教育を組み込む大学が増えている。本学が開講している基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」も自校教育の一つといえるが、実際には、他大学の自校教育に見られる「大学への帰属意識や愛校心の育成」に特化した科目ではなく、本学が掲げる「違いを共に生きる」という大学理念をいかに具現化するか、ということに主眼を置いた科目である。よって、この科目ではアクティブラーニング(グループワーク)を導入し、学生自身が、授業で取り上げるテーマを主体的に考え、課題の設定と打開策の提示に取り組み、さらに、意見の違う他者との共生を模索する、ということを目的としている。 本発表では、基幹科目「違いを共に生きる・ライフデザイン」での具体的な取り組みを紹介し、本学における大学理念教育の実践と課題を報告する。</p>
15:40	
15:45	学生の文章作成における「つまづき」の傾向 <p style="text-align: center;">—ライティングサポートデスク個別相談の現場から—</p> <p style="text-align: right;">初年次教育部門教授 外山 敦子</p> <p>【概要】 学生の「書く力」が不足しているという実感を、多くの大学教員が抱くようになって久しい。学生自身にも「書くこと」への強い苦手意識があり、学生の文章作成を支援する「ライティングサポートデスク(WSD)」の年間利用者は、今年度はじめて全学生の半数を上回った(のべ 5,300 人)。このうち約半数が、学生の文章に1対1でアドバイスする「個別相談」を目的とした来室である。持ち込まれる文章の問題点は様々だが、学生の「つまづき」には共通の特徴が見えてくる。 本発表では、WSDに蓄積された個別相談の記録に基づき、学生はライティング・プロセスのどこで行きづまっているのか、その特徴的な傾向を報告し、より効果的なライティング指導のありかたを提案したい。</p>
16:15	
16:20	ライティングサポートデスクにおけるチューター研修の実践報告 <p style="text-align: center;">—他者との対話と共有による意識の変化に注目して—</p> <p style="text-align: right;">初年次教育部門助教 増地ひとみ</p> <p>【概要】 初年次教育部門では、本学学生の「書くこと」全般を支援する施設として「ライティングサポートデスク(WSD)」を開設している。WSD では、相談者である学生が主体的に考え、修正方法を見いだせるよう、対話によって導くことを重視している。そのような支援を実現するには一定の技術が必要とされる。そのため、WSD において相談業務に当たるチューター(支援者)は、質の高い支援を実践するべく、さまざまな研修によって研鑽を積んでいる。 それらの研修のうち、本発表では 2017 年度の前期末に行った集合研修を取り上げる。この研修では、チューターはまず自らの実践を省察して自身の課題を特定し、その後のグループワークを経て、再度自身の課題について省察した。本発表では、グループワークにおける他者との対話と共有を通して、チューターたちの意識がどのように変化したのかを考察し報告する。</p>
16:50	

※ 発表資料のみご入用の方は、外山敦子(内線〈長久手〉2321 / atoyama@asu.aasa.ac.jp)までご連絡ください。